議会だより ここのえ

九重町立南山田小学校運動会

九重町立野矢小学校運動会

No.98 2012.7.17発行

6月定例会

- 補正予算 P.2
- 常任委員会報告 P.3
- 視察報告 P.4
- 一　般　質　問　6名 P.5~10
- わたしのひとこと P.11

小久保 田中　淑恵さん
北方下 時松るみ子さん

発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成24年7月17日
〒879−4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973−76−3814・FAX 0973−76−3809
メールアドレス（議会事務局）gikai@town.kokonoe.lg.jp.

第2回定例会

本定例会は6月8日から20日までの13日間開催されました。議案6件、発議1件、請願1件、慎重に審議しました。

建設が進むここのえ緑陽中学校

平成24年度一般会計補正予算（第1号）

補　正　額	54,871千円
補正後予算	7,297,871千円

◆補正予算の主なもの

①埋蔵文化財発掘事業費（15,874千円）
公的賃貸住宅建設予定地（東飯田・北代〈4,588m²〉）について、埋蔵文化財が出土したことから、文化財保護法に基づき発掘調査等を行うもの。

②農業体質強化基盤整備促進事業（網掛井路改修事業）（20,940千円〈国・県14,000千円・地元負担3,000千円〉）
国の追加の予算配分に伴い、老朽化が進み漏水や取水施設の不具合が生じている網掛井路（野上・網掛〈全延長4,650m、うち860m〉）について、改修を行うもの。

③ロンドン五輪出場選手支援補助金（1,000千円）
ロンドンオリンピックの出場権を獲得し、オリンピック３大会連続出場を決めたホッケー女子日本代表（さくらジャパン）の岩尾幸美選手（野上・小平谷）を支援するためのもの。

④保健指導車購入事業（軽自動車１台・1,493千円）
国際ソロプチミスト玖珠より、認証20周年を記念して町に頂いた寄付金を充当し、保健指導車を購入するもの。

岩尾幸美選手（一番右）

総務建設産業常任委員会
審査報告

議案 3件

区長設置条例の一部改正

議案第42号

区長設置条例の一部改正は、区長を選任するにあたり、職務である区域内の区民実態の把握、及び町との連絡等を速やかに処理する必要があることから、「住民基本台帳に記載され、現に本町に居住している者」を加えることであり、可決しました。

土地基盤整備事業の補助条件等の一部改正

議案第44号

土地基盤整備事業に関する補助条例等の一部改正は、議案43号と同様で条例施行に伴い、「補助金・交付金事務」「貸与又は貸付事務」に関し、資格要件を設定し、暴力団関係者を排除するものであり、可決しました

九重町公の施設の暴力団及び暴力団員排除に関する条例の制定

議案第43号

九重町公の施設の暴力団及び暴力団員排除に関する条例の設定は、平成23年4月1日から施行された、九重町暴力団排除条例に伴うもので、九重町が設置する公の施設の中で資格要件を設置し、暴力団関係者を排除するためのものであり、可決しました。

公共施設　九重文化センター

委員会質疑

総務課

Q 人権・同和問題に関する、本年度の取り組みは。

A フィールドワークを開催し、新任課長やグループリーダーを対象として、体験型の学習を計画している。

企画調整課

Q 県のコミュニティ助成の不採択が1件あがっていたが、理由は。

A 地元から提出された申請書を町の意見を付さず県に提出しているので、町は不採択の理由を把握していない。

Q コミュニティバスの本格運行はいつからか。

A 現在、実証運行区間と、本格的に実施している運行区間がある。新たな要望区間もあるが、採算も含めて「九重町地域交通協議会」で協議したい。

Q 菅原地熱井は、現在噴出実験中であるが、今後は。

A 噴出実験中であり、データ等を分析してから、今後については検討したい。

危機管理・町民安全課

Q 先日、町道において死亡事故が発生したが、今後の対策は。

A 現在、警察や建設課などで事故対策を協議している。大変痛ましい事故でもあり、対策を十分検討したい。

Q 防災士の養成計画は。

A 当初予算で計画している20名程度を養成したい。また、防災士の養成講座では、数日を拘束することから、短期で終了するための対策を考えている。募集については、それぞれの地区協議会や宿泊施設等に働きかけていく。

試験噴出中の菅原地熱井

教育民生観光常任委員会

議案第41号

大分県後期高齢者医療広域連合規約の変更に関する協議について

法改正により、外国人住民も住民基本台帳に記載されることから、大分県後期高齢者医療連合の経費の支弁方法が変更されることとなり、「広域連合の経費の支弁方法が変更される場合は、関係地方公共団体の協議により定める。」必要があることから本件協議については、適当であるとの結論に達しました。

請願第1号

大分県教職員組合玖珠支部執行委員長穴井有司氏、九重町PTA連合会長甲斐達文氏他10名からの「少人数学級の推進など定数改善、義務教育費国庫負担制度二分の一復元に係る意見書の提出に関する請願について

OECD諸国並みの教育環境整備と義務教育費の国、負担割合の復元を求めるものであり、憲法の保障する、教育の機会均等の観点からも請願の趣旨は理解できることから採択することとし、国の関係機関に対し意見書を提出することで意見の一致を見ました。

追加議案

義務教育費国庫負担制度の厳しい情勢の中で、地方に対して教育に対する財源は二分の一から三分の一に引き下げられ、教育予算といえども現状維持すら厳しくなっています。教育の機会均等の観点から、きめこまかな教育を行うために30人以下学級、複式学級の解消など条件整備を求めるために次の内容による意見書の提出を決定しました。

一、少人数学級を推進すること、OECD諸国並みの30人以下学級とすること。

二、義務教育費国庫負担制度の国負担割合を二分の一に復元すること。

以上地方自治法第99条の規定により意見書を提出する

平成24年6月20日
大分県九重町議会

委員会質疑

商工観光課

Q スポーツ観光の取組みについてどう考えているか？

A 7月22日にオープンします九重・飯田高原クロスカントリーコースなど新たな拠点施設の整備で、「観る観光」から「ふれあい自らが行う観光」九重町しか出来ない山岳高冷地の特性を生かした、「走る・歩く・登る」スポーツ観光、スポーツ合宿の推進を図り、リピーターを増やしていきたい。

7月22日オープンを迎える、
九重飯田高原クロスカントリーコース

保健福祉センター

Q 町民の健康管理について
町民の健康管理の声かけをどのようにしているか。

A 本年は、保健師を1人増員して、地区別（東飯田・野上・飯田・南山田）に配置をして、町民に健康管理の声をかけている。

九重〝夢〟大吊橋施設

Q 大吊橋の本年4月以降の入場者の動向について

A 外国人（台湾・香港・中国）が多く、ツアーなので雨天でも来る。県内者は少なく、福岡・佐賀・熊本の方が多い。

社会教育課

Q 人材育成事業補助金（三百万円）の申込みはあるか。

A 5月末現在、1件の申込みがある。今後もいろんな形で利用を呼びかけていく。

議会運営委員会視察研修をおえて

議会運営委員会の視察研修を5月15日～17日の3日間、宮城県山元町、松島町、名取市の一市二町で行いました。1日目は、3月11日の東日本大震災で死者六七〇人、流された家屋一、〇一三棟の被害を受けた山元町でした。現地を訪れ説明を受け、私は言葉も出ませんでした。2日目は日本三景の松島町を訪れました。沖に並んだ島々が津波を防ぎ、死者16名（内町外者14名）と比較的少ないものの、地盤沈下により住宅地には水が溜っていました。3日目の名取市は今回の視察で最も被害が大きく、死者九一一人、行方不明者65人にのぼり、訪れた閖上（ゆりあげ）地区の住宅地は住宅被害一三、一五四棟にのぼり、見渡す限り何もなく復興と道程の厳しさを感じ、改めて心よりお見舞い申し上げたい思いでした。いつ発生するか解らない災害に備え、災害時における議会のあり方を貴重な体験と被災地の実態を学び、議会はいつどのような災害にみまわれても町民の人命と財産を守るために何ができるのか、成すべきかを検討し役割を考えておくべきではないかと改めて考えた今回の視察研修でした。世界的な異常気象と大地震の予知が報じられている現在、早急に災害時における議会のあり方などの対応を行いたいと思うと共に、一日も早い被災地の復興を祈っております。

甚大な被害を受けた名取市

議会運営委員長
佐藤勝憲

6人の議員が一般質問

ずばり町政を問う

ここが危い 信号機設置を

警察と協議し強く要請したい

藤原 三治

藤原 過去、何度も重大事故が発生した町内の交差点で死亡事故が発生した。二度とこんないたましい事故が起きないように点滅の信号機設置はできないか。

町長 危険地帯である事は承知しており、見通しを良くするために木の伐採等お願いしている。信号機は警察と協議して強く要請していきたいと考えている。

安全対策が待たれる交差点

●県道沿いの水路に蓋を!!

藤原 県道下恵良九重線川下地区の通学路は、道幅が狭く、大型車も頻繁に通り、見通しが悪く危険である。県道沿いの水路に蓋をかけられないか。

●承諾があれば要請する

町長 路線の理事会でも意見が出て現地の確認をしたところであり、水路管理者の承諾があれば将来計画の中に取り組むよう県に要請したい。

危険な川下地区の通学路

●公園や学校内の遊具の安全性は?

藤原 調査費を計上して町内の遊具の点検をしたが手を加え残せるものは残す等、撤去や取り替えは住民の声をしっかり聞いて対応しているのか。

町長 予算は撤去費しか見ていない。改修はできないと判断し、危い箇所は立入禁止のテープを張り区長に撤去をお願いしている。

●これが危い早急な対応を

藤原 東飯田小学校のケヤキと柳の大木に大穴が空き空洞化している。下には遊具もあり子供達の遊び場になっている。南に枝を張り傾いた古木は雨を含み重くなり、大風や突風で折れる恐れがある。3本の楠の枝も枯れが激しく、車や人の被害が予想される。日田市は先の事故を機に街路樹や公園の木の点検伐採を行ったが、我が町も町内の総点検を行い、対応すべきではないか。校庭の大木は早急に枝を落とし安全な状態にすべきではないか。

折れたら大事故の古木

町長 街路樹の調査はしていないが、学校内の枯れ枝は検討中である。学校内の樹木は過去の歴史などで判断、対応が難しく、もし危険な状態であれば、子どもが立ち入らないよう対応していきたいと考えている。街路樹については県道、町道、国道を含めて県下で1、2番目に長く、町としての対応は難しく、消防や区長さんの申請に対応していくのが精いっぱいではないかと考えている。

●官民一体で早急なシステム作りを望む

藤原 危険な看板、外灯の柱、石垣、ブロック塀、調べればまだまだ多くの危険箇所が予想されます。距離が長い、仕事が多い、だからできないではなく、町の車1台職員1人を出して住民の中から土木や建築のOB、林業や造園の体験者に協力をお願いし定期的にパトロールすると専門的な視点で災害防止が可能ではないか。生き甲斐作りにも繋り一石二鳥と考える。事故が起ってからでは間に合わない。早急なシステム作りを望みます。

県道沿いの危険な広告板

※他に危険な廃屋、空き家の対策について質問しました。

職員の給与や採用は！

創意工夫・検討する！

江藤 一幸

●職員の給与や採用は！

江藤　総務省から、地方公務員の給与体系について今後の考え方、どう説明があったか。町職員の採用2次試験の面接等ある程度の人数で行ったらどうか。又栄養士等の有資格者や語学等が堪能、スポーツ等の特技を有する者を優先して雇用してはどうか。

●創意工夫・検討する！

町長　素案では協約締結権を付与し、民間給与の実態調査をし、組合と協議交渉をと言っている。2次は、町三役と民間2名で対応している。資格等を持った人が一般職で入っていただければ活躍の場も有り、一つの方法として検討してみたい。

職員（職場）写真

生活出来る産業振興を！成果めざして頑張る

江藤　一万人定住構想や結婚対策は重要と考えるが、農業や観光も含め個人の所得向上も重要課題と捉え、その実態に即した事業を展開するべきでは。課長やリーダーは、月に1回ぐらい町内の実態を調べたらどうか、それを踏まえ成果が上る事業を。

町長　農産物は、全般的に価格の低迷が続いている。組織の皆さんと、考え方を整理、『販売力』をたかめていきたい。

商工観光では、滞在型観光、走る、歩く、登るスポーツ観光、合宿の推進、合せて訪日外国人旅行客の誘致に力を入れる。

大規模農業施設の視察風景

第四次総合計画

定住一万人の実現に向けて

プロジェクトチームを作成し、努力する

佐藤 明郎

日本一の田舎づくりと定住一万人計画の関わりは？

佐藤　定住一万人に繋がる日本一の田舎づくり事業であるべきではないか。

町長　日本一の田舎づくりプロジェクトは目に見えない美しい人間関係、自然を守り芸能、文化を受け継ぎ、都会の人にアピールできる方法であり、即定住一万人に結びつくものではない。

佐藤　計画されている日本一の田舎づくり事業はイベント性が高い、行政がメインの事業として取り組むべきものなのか。

町長　日本一の田舎づくりは提唱されたけど一体どうなっている、との声も多く、目に見える取組みも必要であろうと始めた。やはり入口は行政が行い最終的には、御指摘のとおり、町民が主体的に取り組めるように、と思っている。

佐藤　10年後、定住一万人を死守するとの目標を達成する為には、イベントでは無く、農業問題、雇用拡大、この2点を行政の柱として打ち出すべきだ。

町長　定住一万人プロジェクトは向こう10年間、役場の総力を挙げて取り組まねばならない問題、全課をあげてプロジェクトチームをつくり、知恵を出して行く事が必要だ。様々な課題を複合的に、その時々の情勢を的確に絡ませていく事が大事である。

雇用問題・農業問題を町の重点課題に

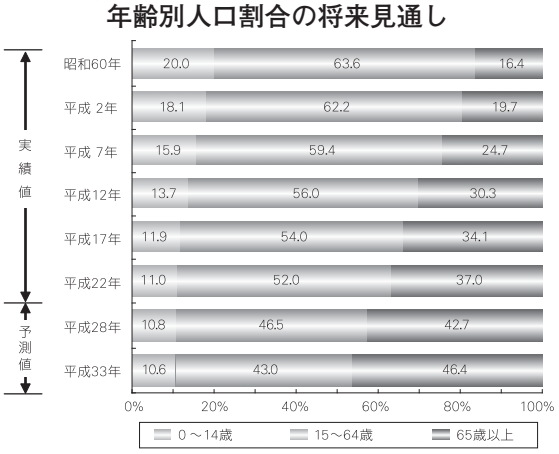
佐藤　様々な計画が立てられているが、打出すだけでは意味がないと思う。企業立地、雇用拡大いずれの取組みも本気で取り組める体制自体できていないと思うが。

町長　国の指導もあり職員数の減を続け、限界のところまで来ており、今の体制では本当に厳しいと感じている。しかし与えられた人数で仕事をしっかりやるのが役場の仕事である。

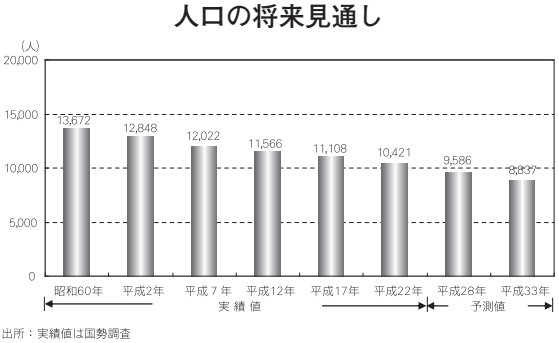
佐藤　多くの町民が将来の不安として声を上げている課題…この解決にむけての具体的取組みを行う事が町の将来につながるものと思う。

イベントでは無く、雇用拡大、農業問題、この2点を町のメイン施策として旗を上げ全町的な取組みが今こそ必要ではないか。

町長　それらも含め、庁内のプロジェクトチームの中で、それに対応すべく、取り組んで行きたい。



出所：実績値は国勢調査



出所：実績値は国勢調査

総合計画とは？…

10年後の九重町のあるべき姿、目指そうとする姿を策定し、それを実現するための施策を示し、皆で協力していく計画です。

町内の空き家、活用対策は

調査し補助、支援を行う

有吉 富生

●定住に向けた空き家対策は

有吉 各地に空き家が目立っている。
調査結果により町から積極的な仕掛けで補助金等を有効活用し定住の為の整備をすべきでは。

町長 定住のために町営住宅の整備や補助金での支援を行っている、空き家の利用については今後も所有者との協議をしていく。

●危険廃屋対策は

有吉 危険状況の廃屋対策は、全国的な問題となっているが町としてどう対応していくか。条例の制定も必要では。

町長 町内にも廃屋がかなりあるが、個人の財産であり対応がむつかしい。（空き家と廃屋の問題は、）全国的な課題であり条例化についても検討して整理したい。

●観光振興の計画は

有吉 今年度の観光宣伝の実施はどのように計画されているか。また、観光協会と行政との連携をどう考えているのか。

町長 県や関係機関を連携しながら九州内から大阪まで誘致宣伝を行い、広告媒体、雑誌、情報誌、テレビ、ラジオ等々を活用する。

有吉 町有地内に町内の案内やイベントを紹介する看板設置場所を提供し、町内の宣伝を行ってはどうか。

九重インターの町内案内板

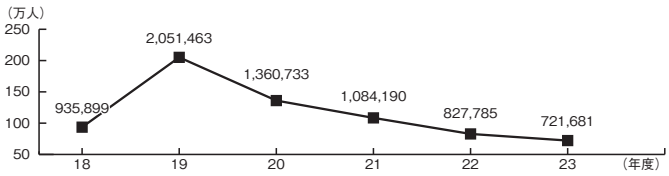
町長 吊り橋等の目につく場所に設置するのは良いことと思う。観光協会の意見も聞き、検討したい。

●苦情や意見は生かされているか

有吉 吊橋を含め観光客から意見や苦情があると思うが、対策は出来ているか。

町長 色んな苦情や意見があるが、整理しながら解決に向け努力している。

“夢”大吊橋入場者数



【入場者数の状況】　（単位：人）

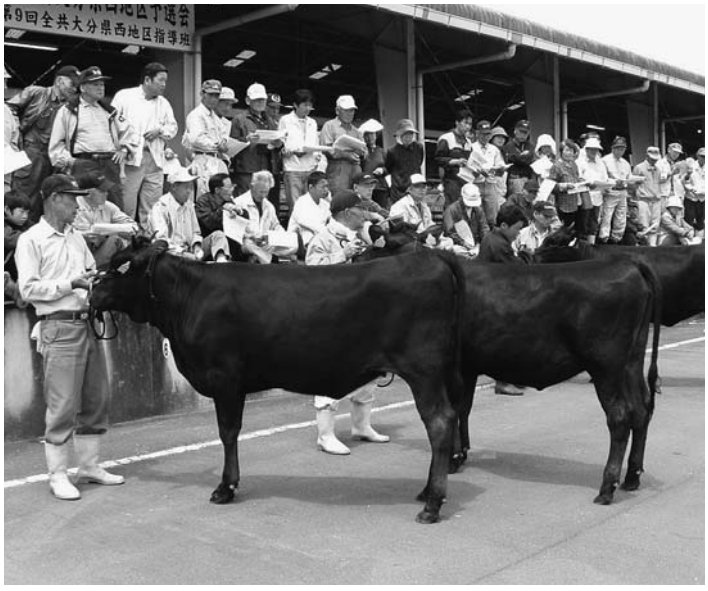
区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23見込	合計
入場者数	935,899	2,051,463	1,360,733	1,084,190	827,785	721,681	6,981,751

農林業の推進に対する支援は

有吉 農林業の推進のためにどんな支援を行っているか。補助金の活用等は、町民に周知出来ているのか。

町長 本年度の取り組みとして、未整備地区の農地の基盤装備や、戸別補償制度の活用、集落営農組織に対する農機具の支援等、各分野に支援を計画している。

活きいきハウス導入事業で建てた
野矢田代地区のビニールハウス



第９回和牛能力共進会予選　玖珠家畜市場

限界集落の解消策は

行政区合併の取り組み

大津留 敏加

大津留 本年3月末、町の世帯数は3、892世帯、人口は10、590人、うち男性5、037人、女性5、553人と町報ここのえに掲載をされており、各地区別の東飯田、野上、飯田、南山田の行政区数と人口、65歳以上と70歳以上、65歳以上の割合が50パーセント以上の限界集落はどのようになっているか。

町長 町報ここのえに掲載した世帯数は、住民基本台帳で、行政区に入っている世帯数は、3、165世帯である。町内には二つの老人施設があるが、老人施設の一つが行政区になり、老人施設を除くと、限界集落は、野倉・田代・青山通・中央二・奥双石・平家山・釜の口・無田上・井手・黒猪鹿の10行政区になる。

行政区担当職員制の効果は

大津留 昨年10月より、基本台帳に基づく55歳以上の占める割合が60パーセント以上の行政区、28行政区に対し行政区担当職員制を設置したが、成果は上がっているのか。また、行政区間の合併について、どのような考えがあるのか。

地区別高齢化状況

（平成24年３月末現在）

地区名		東飯田	野上	飯田	南山田	合計
行政区数		35	36	29	40	140
世帯数		996	909	779	1, 208	3, 892
人口	男	1, 309	1, 159	996	1, 573	5, 037
	女	1, 436	1, 295	1, 055	1, 767	5, 553
	計	2, 745	2, 454	2, 051	3, 340	10, 590
65歳以上	男	379	352	302	472	1, 505
	女	569	551	403	726	2, 249
	計	948	903	705	1, 198	3, 754
	%	34. 54	36. 80	34. 37	35. 87	35. 45
70歳以上	男	298	278	233	380	1, 189
	女	476	447	319	625	1, 867
	計	774	725	552	1, 005	3, 056
	%	28. 20	29. 54	26. 91	30. 09	28. 86
65歳以上50%超集落数		1	5	2	2	10
70歳以上50%超集落数		0	1	2	2	5

注
1．行政区数及び世帯数には、下旦七（シルバーランドメルヘン）、中村下野（飯田）、桐木五（亀鶴苑）が含まれている。
2．限界集落とは、65歳以上の人が人口の50%以上を占めている集落をいう。
3．純限界集落とは、55歳以上の人が人口の50%以上を占めている集落をいう。
4．高齢化率とは、65歳以上の人が総人口に占める割合をいう。

課題を聞き行政に反映

町長 昨年10月末から来年3月末まで試行期間で配置をした。変動は無い。配置職員は2名体制で、担当職員の報告を聞くと、受ける側もまだ慣れてなく、課題を抱えており町としても声を聞き行政に反映させたい。

行政区合併については、私がなる前から引き継いで、行政区合併をしなければと区長を通じ話したことがあったが、当時は山林等の資産価値が高く、課題が多く、出来なかった。飯田の湯沢地区は4行政区が1行政区に合併し成果が出ている。今後、区長会等で田舎づくりの一つとして、話して行きたい。

20年以上空屋状態となっている住宅

統合中学校25年開校に向け

区域外通学の要望があった時は

佐藤 博美

●区域外通学

佐藤　飯田中学校の生徒数は、学校再編の説明会があった平成19年には85名、今年が46名、5年後の29年には全校で26名という生徒数になると聞くが、生徒数の減少の事もあり、昨年度、保護者を対象に行った「統合中学校に対するアンケート」でも、統合に対し賛成が18名、反対が17名、もっと議論すべきが18名だったと聞く。もし飯田地区の生徒が、区域外通学で統合中学へ行きたいとの要望が出た時は、どうなるのか。

●教育委員会で

教育長　町が指定した学校以外の学校に通う、いわゆる区域外通学については、特例という形で規則があり、申請が出てきた段階で、その申請された条件について教育委員会の中で、審議して認可を決定する事になっている。

●耐震対策

佐藤　飯田中学校の校舎、体育館ともに耐震改修が必要だが、どれ位かかるのか。

教育長　飯田中学校の校舎は昭和40年に建設し、約46年経過しており、当時の設計図自体がない状況で、コンクリートの中性化等も進み、非常に老朽化しており、耐震補強は難しく、改築の方法しかない。

　改築の場合、既存校舎の解体も含めると3億円程度、又体育館の耐震まで入れると5億円近くになると考えられる。

ここのえ緑陽中学校イメージ図

●本音の議論

佐藤　地域の声も様々ある中で、飯田地域の皆さんに今の現状を正しく伝え、地域全体で区長会等を通じ、地域の意見をとりまとめる事も必要ではないか。

教育長　今月になってから、飯田地区の区長さんにこの問題の状況報告を町長といっしょに話をして、各行政区に持ち帰って話し合いをしてもらう様に話をしている。

　当時、議会に陳情も出て、方針決定した以上、これは重たいものですが、当時と変わって来た状況もありますので、もう一度地域の皆さんで話し合って頂くようにしています。

わたしのひとこと

みそ汁作りを通して感じたこと

小久保
田中　淑恵さん

和食の基本、白いごはんにみそ汁。九重町では美味しいお米があり、ふるさと館や道の駅へ行けば、手作りみそもすぐに手に入ります。小学校ではお米作りも行っています。九重町は子どもと一緒に「食」について考えるチャンスは、どこの地域よりもたくさんあるように感じます。

スーパーなどに行けば、手作りなどせずに買えばすぐに食べられます。手作りは時間もかかるし、面倒くさいというのも本音です。でも、お店で売っているものは、手作り出来るんだよと子どもに伝え、一緒に料理を作る時間を持ち、食べることの大切さ、作ることの楽しさを感じる事の出来る子どもに育ってほしいと願っています。

今回親子で「食」を考える良い機会になりました。皆さんもその家ならではのみそ汁を家族で作ってみてはいかがですか。

先日、小五の娘が小学校の調理実習でみそ汁を作りました。一人一汁「マイみそ汁を作ろう。」という授業で娘は一人で作れるのだろうか、と心配でしたが、具材を考えたり、みそ汁の量を調べたり、家で作ってみたりと、とても張り切っていました。調理実習は、上手にでき、みんなで楽しく食べ比べなどもして、よい勉強になったようでした。家では、毎年みそを母が手作りしています。私は母に任せてばかりで何となくの手順しかわかりません。子どもがみそ汁の作り方を覚え、身近にいる母がみそ作りをしている事を良い機会だと思い、子どもと一緒にみそ作りを母から習おうと思います。

授業で取組むみそ汁づくり

山ガール

北方下
時松るみ子さん

ミヤマキリシマが見頃を迎え、本格的な夏山シーズン到来となりました。健康づくりともあいまって中高年の登山ブームとなっていますが、最近よく耳にするのが「登山女子」「山ガール」です。カラフルな登山ファッションで山に登る若い女性の事で雑誌の特集にされる程の人気です。

登山の魅力は、人それぞれだと思いますが、山ならではの花や植物を楽しみながら苦労して登り着いた頂上での爽快感と達成感は何ともいえず、それまでの疲れを忘れると聞きます。私も小中学校の遠足では久住山、大船山、三俣山等に、登りましたが、どの山も頂上から見た雄大な景色は子どもながらに感動した事を覚えています。おいしいお弁当を食べ、きれいな空気を吸った後の下山は足が軽く感じました。ただ、登山者が多くなれば事故件数も増加しています。その内7割以上が60歳～70歳で、その多くは無理な登山計画や準備不足などが原因だそうです。又、マナーに欠ける登山者も多いとの事です。山のマナーを守る事。自分の体力にあった山を選び無理せず、しっかりした準備をし、無事に下山してこそ山を堪能したと言えると思います。

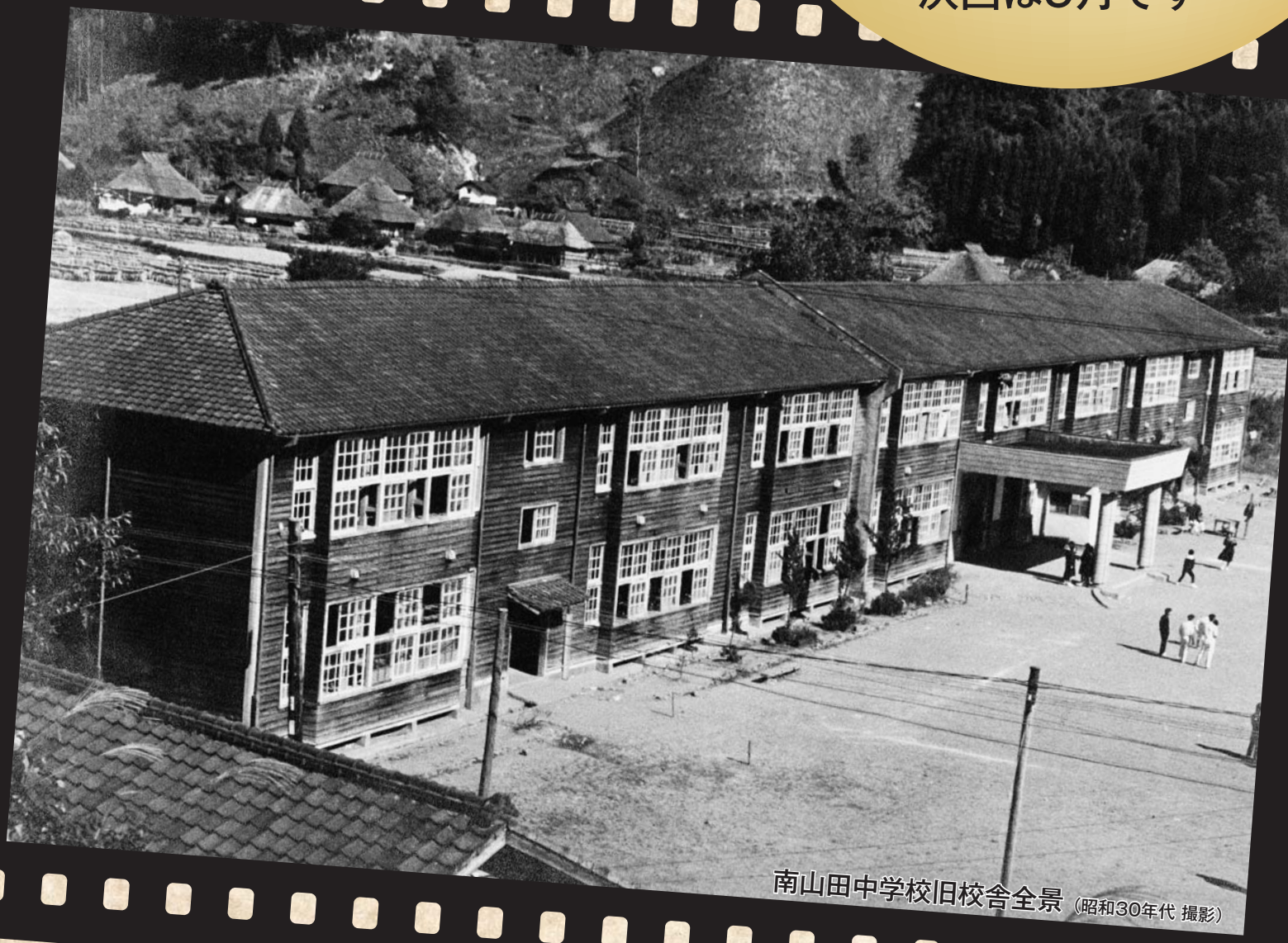
地元にいながら、なかなか登山する事がありませんが、今回「登山について」少し調べたので、久しぶりに山登りにチャレンジしようと思います。

平治岳に登る山ガール

傍聴へどうぞ

次回は9月です

思い出のアルバム　No.10



南山田中学校旧校舎全景（昭和30年代 撮影）

写真提供：南山田中学校閉校準備委員会

お手持ちのなつかしい写真をお貸しください

編集後記

◆政局の混乱に紛れ、大飯原発の再稼動が決定し隣県にある伊方原発も再稼動にむけた動きが見られます。一年前の現実もあり大いなる不安を隠しきれませんが、国民生活に不可欠な電力が決定的に不足するという事実があれば特に医療、福祉関係等を考えますと悩ましい問題であります。

国民総節電は必要ですが、残念ながら手にいれた利便性を手放せないのが人間ではないでしょうか。便利になるということは、同時に大切なものを失うということではないでしょうか。議会においても町民の意志を代表する機関としての、自覚を再確認し、議員活動に努めたいと思います。

佐藤　明郎

・広報委員長　坂本　憲治
・副委員長　藤原　三治
・委員　日野　康志
・委員　大津留敏加
・委員　池部　俊慈
・委員　佐藤　明郎